

2022年度 学校自己評価

文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」に則り、昨年度に続き教職員による学校自己評価を実施しました。卒業生に対して実施した教育評価の満足度・到達度のアンケート結果とあわせ評価しました。集計結果を基に学校運営上の課題を明確にし、改善につなげるとともに、外部委員の参画による意見を取り入れ、受益者である学生の学習環境改善に努めてまいります。

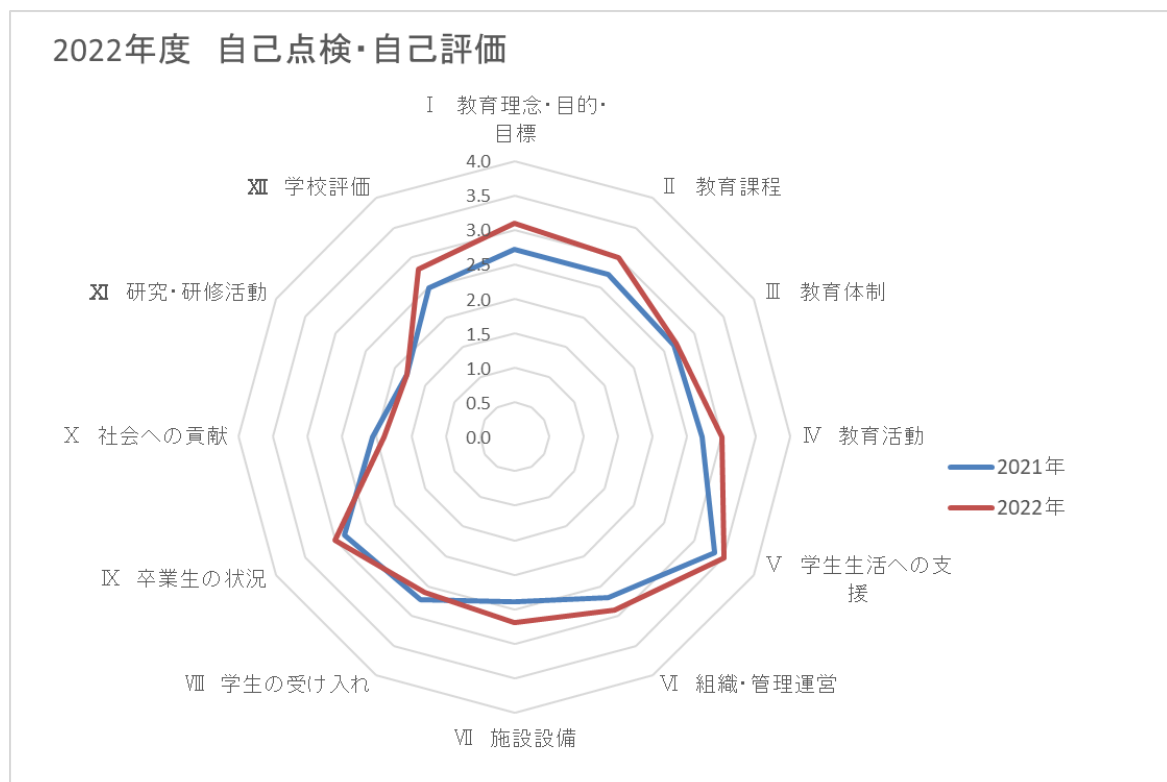
【大項目評価】

評価は右記の4段階とした 4：良い 3：やや良い 2：やや不十分 1：不十分

I	II	III	IV	V	VI
教育理念・ 目 標	教育課程	教育体制	教育活動	学生生活支援	組 織・ 管理運営
3.1	3.0	2.7	3.0	3.5	2.9

VII	VIII	IX	X	XI	XII
施設設備	学生受け入れ	卒業生の状況	社会への貢献	研 究・ 研修活動	学校評価
2.7	2.6	3.0	1.9	1.8	2.8

【大項目評価のレーダーチャート】



		2022年度 自己点検・自己評価結果 評価基準: 良い(4) やや良い(3) やや不十分(2) 不十分(1)				前年+	+0.5 ↑
				前年-	-0.5 ↓		
		2022年	2021年	2022年	2021年		
I 教育理念・目的・目標	1	教育理念・教育目的は、法との整合性がある	3.1	2.7	3.6	3.4	
	2	教育理念・教育目的は、自養成所の教育上の特徴を示している			3.2	3.0	
	3	教育理念・教育目的は、看護、看護学教育、学生観について明示している			3.3	2.9	
	4	教育理念・教育目的・目標は、学生にとって学習の指針となるように具体的に示している			3.3	2.6	
	5	教育理念・教育目的・目標は、養成する看護師が卒業時点に持つべき資質を明示している			3.5	3.1	
	6	教職員は教育理念・教育目的・目標について認識し、共有している			3.0	2.5	
	7	教育目標は、学生・保護者に浸透している			2.4	2.1	
	8	卒業時の到達状況を分析し、教育活動にフィードバックしている			2.5	2.2	
	9	教育理念・目的・目標は社会の変化、ニーズに対応し見直している			3.0	2.6	
II 教育課程	10	教育課程は看護学の内容・求める学修の到達及び学生の成長発達について明確な考え方と根拠を持って編成されている	3.0	2.7	3.2	2.6	
	11	教育理念・目的・目標にあった科目設定をしている			3.5	3.1	
	12	教育課程・授業・評価に一貫性がある			2.7	2.5	
	13	科目設定には学校の特色を盛り込んでいる			2.8	2.8	
	14	科目の学科目的・目標は明確に設定している			3.4	3.1	
	15	指定規則に合致した科目と単位・時間を設定している			3.6	3.5	
	16	教育理念・目標に合った順序性で科目を配列している			2.7	2.5	
	17	科目の位置づけと科目間の関連性を明示している			2.9	2.6	
	18	教育課程の評価・見直しは定期的(年1回)に行っている			2.9	2.6	
	19	教育課程の見直しは学生・講師・教員の意見を反映している			2.6	2.2	
	20	教育課程を評価する体系が整っている			2.7	2.2	
21	教育課程評価結果の活用において、倫理的配慮を行っている	3.1	2.9				
III 教育体制	22	教員が専門性を発揮できるように、教員の担当科目と時間数を配分している	2.7	2.7	2.4	2.4	
	23	科目を担当する講師は、その分野を教授するのにふさわしい人が担当している			2.9	2.5	
	24	科目ごとの授業内容を整理し、担当者へ周知している			2.7	2.4	
	25	時間割の進度は、授業計画通りに行われている			2.2	2.5	
	26	各学年ごとにカリキュラムガイダンスを行っている			2.1	2.3	
	27	実習科目の目標・内容に見合った実習施設を確保している			2.6	2.2	
	28	実習施設は学生の看護実践を支援する体制を整えている			2.6	2.4	
	29	実習施設は実習目的を果たすために適切・妥当であるか定期的に見直している			2.7	2.2	
	30	大学(短大)卒の入学生に単位の認定制をとっている			3.2	3.7	
	31	単位認定のための評価基準と方法を学生及び関係者へ公表している			3.6	3.0	
	32	単位認定会議は年2回、卒業認定会議は年1回、開催している			3.7	3.8	
	33	効果的な教育方法について、検討の場を持っている			2.0	2.2	
	34	教員の教授活動を評価する体系が整っている			2.2	2.4	
	35	国家試験対策の教育システムを整えており、個々の学生に合わせた指導を実施している			3.4	3.4	
IV 教育活動	36	学生便覧は内容・構成が工夫して作成され、学生が活用している	3.0	2.7	2.7	2.7	
	37	シラバスが作成され、活用について学生に説明している			3.3	3.1	
	38	単位履修の方法とその制約について教員・学生双方がわかるように明示している			3.3	3.0	
	39	単位履修の方法は学生の単位履修を支援するものとなっている			3.3	3.1	
	40	授業計画に基づいて授業を実施している			3.1	2.7	
	41	授業形態(講義・演習・実習)は、授業内容に応じて選択している			3.5	3.1	
	42	授業内容は精選され、学生のレディネスにそって構成されている			2.9	2.8	
	43	学生が主体的に考え、学習することが可能な授業形態が導入されている(グループワークなど)			2.9	2.7	
	44	視聴覚教育機器・器材の質と量は十分で、効果的に活用されている			3.1	2.5	
	45	教育において日常的に教材研究を行っている			2.1	2.1	
	46	実習指導者と教員は、役割分担を明確にして指導している			2.9	2.5	
	47	授業評価結果に基づいて、実際に授業を改善している			3.0	2.8	
	48	学生の学習活動を多面的に評価するために多様な評価の方法を取り入れている			2.6	2.2	

		2022年度 自己点検・自己評価結果				前年+	+0.5↑
		評価基準: 良い(4) やや良い(3) やや不十分(2) 不十分(1)				前年-	-0.5↓
		2022年	2021年	2022年	2021年		
V 学生生活への支援	49	定期的に健康診断を実施している	3.6	3.4	3.7	3.9	
	50	学生が日常生活の健康管理ができるように指導している			3.6	3.5	
	51	臨地実習での感染防止の対策をとっている			3.8	3.5	
	52	学生相談の窓口を設けていることを学生に周知している			3.7	3.5	
	53	学生相談の専任のカウンセラーをおいている			3.8	3.2	
	54	学生のプライバシーが保持されるシステムを整えている			3.5	3.0	
	55	奨学金制度について学生・保護者に周知している			3.8	3.6	
	56	学生が学業を継続できる支援体制を多角的に整えている ・特待生制度、奨学金、カウンセリング、履修科目の認定、傷害保険、卒業・就職等の進路に関する相談・支援等			3.5	3.4	
	57	中途退学者を少なくする工夫・学習支援体制を整えている			2.9	2.9	
	58	必要時、保護者と適切に連携している			3.7	2.9	
VI 組織・管理運営	59	教員組織は運営に必要な人数と職種が配置されている	2.9	2.7	1.9	1.4	
	60	教員は、看護教員養成課程を修了している			3.3	2.6	
	61	教員が自ら成長できるよう、自己研鑽のシステムを整えている			1.8	1.7	
	62	教員のキャリアを支援するための教員ラダーが活用されている			1.5	1.4	
	63	教員は看護学の専門領域ごとに配置できている			3.0	3.0	
	64	実習調整者は専任で配置されている			3.4	3.2	
	65	職務分掌にそって職員は各々の役割を遂行している			3.1	2.8	
	66	業務内容は効果的な職務遂行ができるよう適宜見直している			2.4	2.6	
	67	学校運営会議は週1回、教員会議は月1～2回、定期的に開催している			3.7	3.8	
	68	学籍簿は学籍の記録、履修状況が正確に記載され、証明機能を備えている			3.7	3.0	
	69	学籍簿は保管が適切になされ、秘密が守られている			3.5	3.4	
	70	学校の事業計画を立てている			2.9	2.6	
	71	職員全員が経営意識を持っている			2.9	2.4	
	72	職員は歳出削減に向けて努力している			3.3	2.8	
73	在学生は定員の90%以上を満たしている	2.9	3.8				
VII 施設設備	74	学生数に応じた施設基準を満たす設備がある	2.7	2.4	2.4	2.1	
	75	校内の施設利用は、学生の効果的な学習ができるよう配慮している			2.6	1.7	
	76	学生ホールは整備され、憩いの場づくりができています			1.9	1.5	
	77	災害時を想定した災害マニュアルが作成されている			2.9	2.9	
	78	防災訓練は定期的を実施している			2.3	3.4	
	79	図書及び視聴覚教材は、分野ごと、領域ごとに分類され整理されている			3.0	2.5	
	80	蔵書数は学生数に見合った十分な冊数である			2.1	1.6	
	81	学術雑誌は指定基準以上の種類を有している			3.1	2.9	
	82	視聴覚機器が整備されている			2.7	3.0	
	83	学生が利用しやすい時間帯に開館している			3.8	3.3	
	84	必要な図書増備の予算計画ができています			2.5	1.8	
	85	教材教具は定期的に点検を行っている			2.9	3.0	
	86	専門領域ごとに教育内容にあった教材を計画的に増備している			2.8	2.2	
	87	教材購入の経費は年次ごとに計画し、増備している			2.1	1.8	
VIII 学生の受け入れ	88	学校の教育理念・目標を反映した学生募集方針を定めている	2.6	2.7	2.2	2.4	
	89	学校説明会、オープンキャンパスの時期、内容は適切である			2.7	2.2	
	90	入学者選抜の時期、方針、方法は適切である			2.5	2.0	
	91	転入学の方法・基準を明文化している			2.5	2.4	
	92	合格者からの入学率は50%以上である			3.3	3.6	
	93	入学者は定員を満たしている			2.1	3.7	
	94	志願者・合格者・入学者などの推移とその評価がなされている			2.9	2.8	

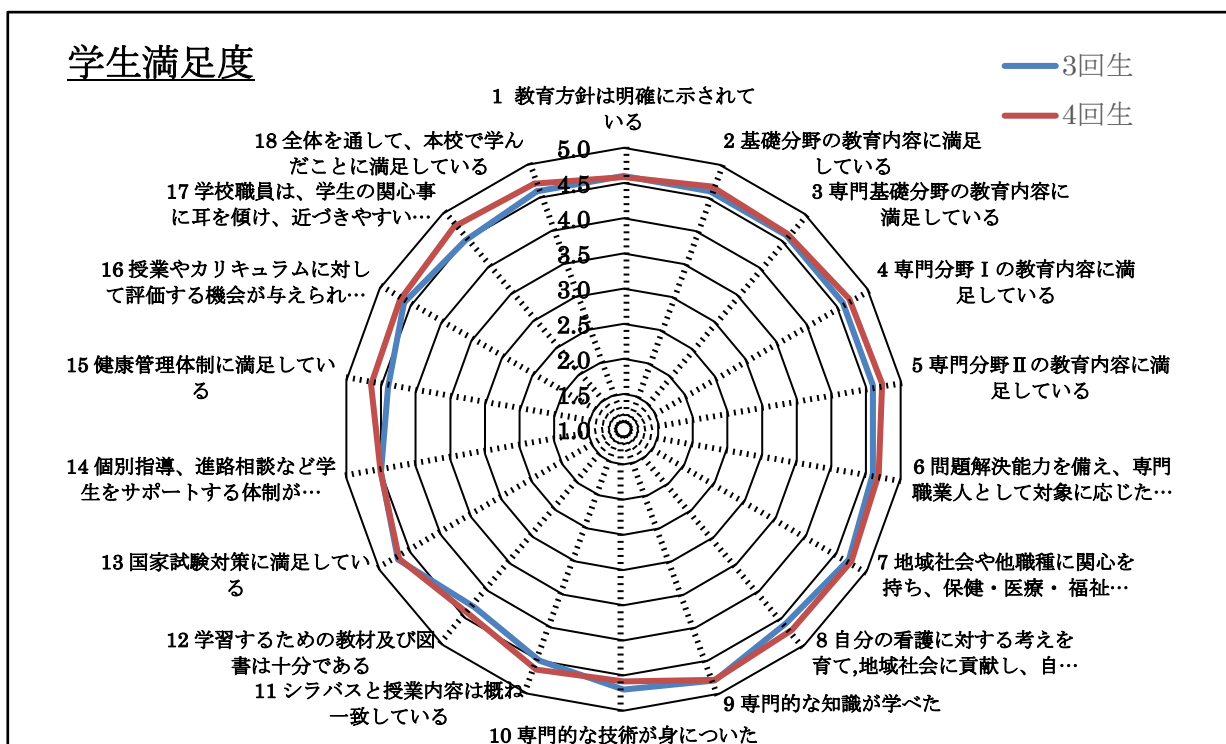
		2022年度 自己点検・自己評価結果 評価基準: 良い(4) やや良い(3) やや不十分(2) 不十分(1)		前年+	+0.5↑	
				前年-	-0.5↓	
		2022年	2021年	2022年	2021年	
IX 卒業生の 状況	95	就職を希望する卒業生の就職率は100%である	3.0	2.8	3.6	3.8
	96	卒業・就業にあたっての進路相談・指導体制が整っている			3.2	2.8
	97	卒業時状況は入学時状況と比較している(学生数の変動等)			2.9	2.5
	98	卒業時の学生の看護実践力を把握している			3.0	2.9
	99	卒業生の就職先との情報交換や調査の実施等ができる体制を整えている			2.5	2.6
	100	期待する卒業生像と、就職先での評価は妥当である			2.5	2.4
	101	国家試験合格状況は、全国の平均合格率を上回っている			3.0	2.8
	102	国家試験不合格者の背景、特性を分類し、教育活動に活かしている			3.1	2.9
X 社会への 貢献	103	看護教育および看護の情報を公開し、広報活動を行っている	1.9	2.1	3.0	2.9
	104	近隣施設へのボランティア活動に積極的に参加している			1.4	1.5
	105	近隣施設の生涯教育の場として学校を開放している			1.3	1.5
	106	高等学校と連携したキャリア教育に取り組んでいる			1.6	1.9
	107	国際的視野を広げるための授業科目を設定している			2.4	2.5
XI 研究・ 研修活動	108	教員の研究活動を保障(時間的・財政的・環境的)している	1.8	1.8	1.6	1.4
	109	教員は主体的に研究活動を行っている			1.5	1.8
	110	教員は看護・教育関係の学会に所属している			1.9	2.1
	111	教員は計画的・主体的に研修に参加している			2.4	2.1
	112	教員が研修に参加できるようなシステムがある			1.6	1.5
	113	教員は外部講師としての役割を果たし、活動している			1.9	1.9
XII 学校評価	114	自己点検・評価のシステムがつくられている	2.8	2.5	2.9	2.6
	115	自己点検・評価の活動は教職員に明確に理解されている			2.5	2.4
	116	自己点検・評価に必要な基礎データの整備がなされている			2.4	2.3
	117	自己点検・評価を定期的実施している			3.1	2.8
	118	自己点検・評価の結果を公表している			2.9	2.2
	119	第三者による評価を実施している			2.7	2.6
	120	評価を次年度に活かし改善している			2.1	2.1

【卒業生の満足度】

卒業生満足度アンケート調査結果

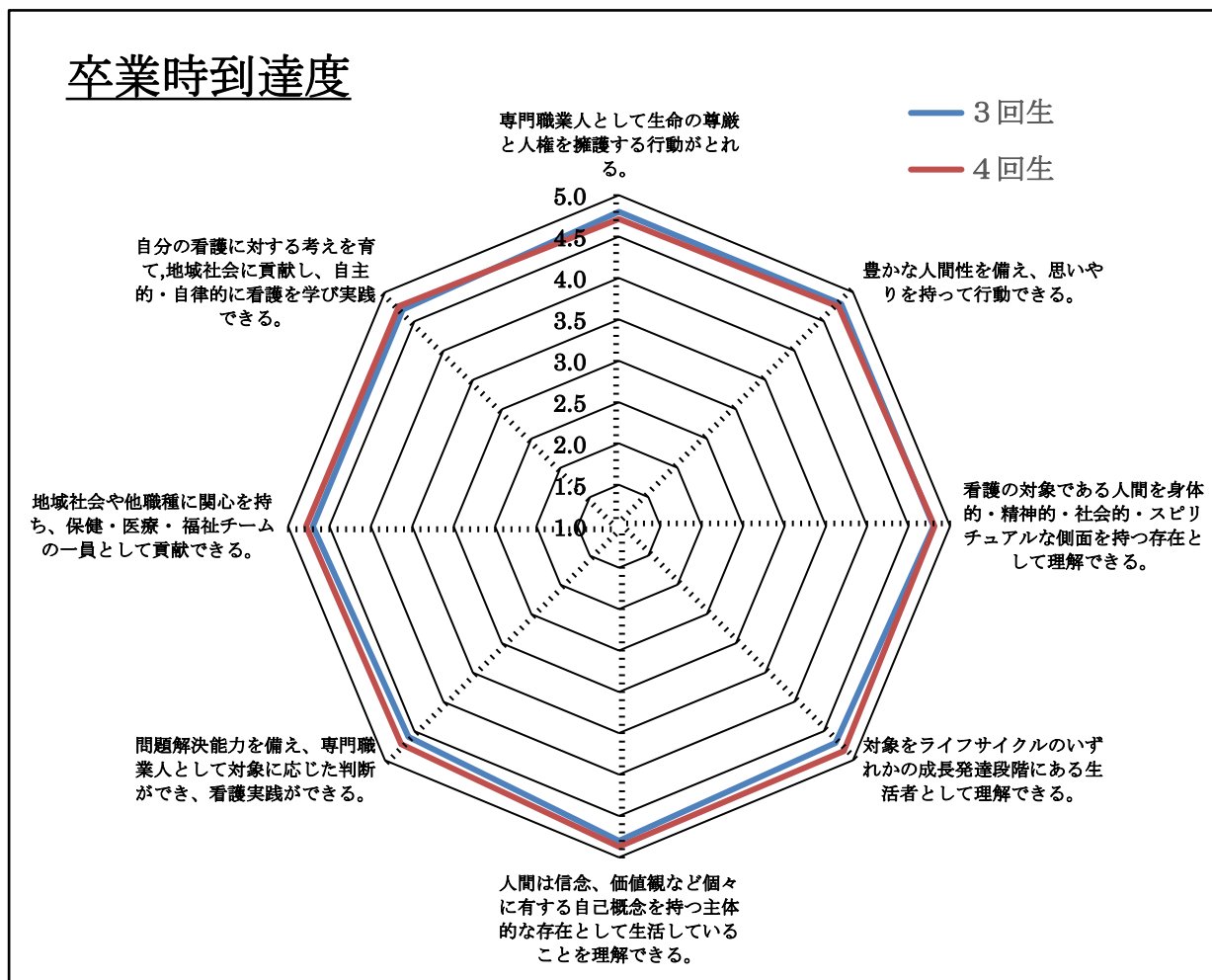
4回生 115名(無回答14名) 3回生 123名(無回答4名)

教育評価(卒業生満足度)		4回生	3回生
1	教育方針は明確に示されている	4.6	4.6
2	基礎分野の教育内容に満足している	4.7	4.6
3	専門基礎分野の教育内容に満足している	4.6	4.6
4	専門分野Ⅰの教育内容に満足している	4.7	4.6
5	専門分野Ⅱの教育内容に満足している	4.7	4.6
6	問題解決能力を備え、専門職業人として対象に応じた判断ができ、看護実践ができる	4.7	4.6
7	地域社会や他職種に関心を持ち、保健・医療・福祉チームの一員として貢献できる	4.7	4.7
8	自分の看護に対する考えを育て、地域社会に貢献し、自主的・自律的に看護を学び実践できる	4.7	4.6
9	専門的な知識が学べた	4.8	4.8
10	専門的な技術が身についた	4.6	4.7
11	シラバスと授業内容は概ね一致している	4.6	4.5
12	学習するための教材及び図書は十分である	4.4	4.3
13	国家試験対策に満足している	4.7	4.7
14	個別指導、進路相談など学生をサポートする体制が整っている	4.5	4.5
15	健康管理体制に満足している	4.6	4.4
16	授業やカリキュラムに対して評価する機会が与えられている	4.7	4.6
17	学校職員は、学生の関心事に耳を傾け、近づきやすい存在である	4.8	4.5
18	全体を通して、本校で学んだことに満足している	4.7	4.6



4回生 115名(無回答14名) 3回生 123名(無回答4名)

教育評価(卒業時到達度)		4回生	3回生
1	専門職業人として生命の尊厳と人権を擁護する行動がとれる。	4.7	4.8
2	豊かな人間性を備え、思いやりを持って行動できる。	4.8	4.8
3	看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面を持つ存在として理解できる。	4.8	4.8
4	対象をライフサイクルのいずれかの成長発達段階にある生活者として理解できる。	4.8	4.7
5	人間は信念、価値観など個々に有する自己概念を持つ主体的な存在として生活していることを理解できる。	4.9	4.8
6	問題解決能力を備え、専門職業人として対象に応じた判断ができ、看護実践ができる。	4.7	4.6
7	地域社会や他職種に関心を持ち、保健・医療・福祉チームの一員として貢献できる。	4.8	4.7
8	自分の看護に対する考えを育て、地域社会に貢献し、自主的・自律的に看護を学び実践できる。	4.8	4.7



【大項目評価の自己評価の要約と評価】（教員の評価は4段階、学生の評価は5段階で実施）

I 教育理念・目標：3.1

卒業生に対するアンケート結果からは「教育方針は明確に示されている：4.6」と満足度は高かった。教育目標は、「学生便覧」に明示し、入学時オリエンテーションで説明しており、学生や保護者へは伝達されているといえる。

しかし、教員の一番低い細目が「学生・保護者への浸透：2.4」であり、教員が日常の場面で教育目標を意識した行動がとられていないための結果だと思われる。

II 教育課程：3.0

2022年度カリキュラム改正があり、6回生より新教育課程が開始され、カリキュラムに沿って実施できており、教員の自己評価は2.7～3.6であった。6回生は2年生となり、新教育課程となるため、教育課程を評価していきたい。

卒業生の教育評価（学生満足度）からは各分野の教育内容に関して4.6～4.7と高評価であり満足度が高いと評価できる。

III 教育体制：2.7

単位認定や国試対策、個々の学生への支援は3.0～3.8と良好であり、学生からは、「国家試験対策に満足している：4.7」、「個別指導、進路指導など学生をサポートする体制が整っている：4.5」と高い評価を得ている。しかし、教員の低い細目は、「効果的な教育方法の検討の場を持っている：2.0」「学年ごとにカリキュラムガイダンスを行っている：2.1」「時間割の進度は、授業計画通りに行われている：2.2」「教員の教授活動を評価する体系が整っている：2.2」であった。今後は、授業研究などの検討や授業評価の体制を見直す必要がある。

IV 教育活動：3.0

シラバス等の見直しは、領域毎に検討し授業計画や改善につなげており、学生から「シラバスと授業内容は概ね一致している：4.6」「授業やカリキュラムに対して評価する機会が与えられている：4.7」と高い評価を得ている。教員からの低い細目は、「日常的な教材研究の実施：2.6」であった。教員は実習やコロナによる対応業務から講義前の十分な時間の確保が難しい状況であった。次年度は、業務のスリム化、効率化を図りつつ教材研究の検討を行い、より良い授業作りを目指したい。

V 学生生活支援：3.6

学生に対する支援は他の項目と比較すると今年度も最も高い評価であり、健康管理に対する支援が細やかに提供できている。最も低い細目は昨年度同様「中途退学者を少なくする支援：2.9」であるが、学生からの評価は「健康管理体制に満足している：4.6」「学校職員は、学生の関心事に耳を傾け、近づきやすい存在である：4.8」であり満足度は高かった。

退学理由は家庭環境や生活面、学習困難などさまざまであり、学習困難となる前の早期支援をより充実させる必要がある。今後も、個別面談による学生支援を継続すると共に、来年度は心理カウンセラーの採用により学生の精神面の支援を強化し、学生が向上心をもって学校生活を過ごせるように取り組んでいきたい。

VI 組織・管理運営：2.9

学校運営上の決定は週1回の運営会議で適時迅速な対応に努め、教職員は、業務分掌に従って役割を実施し、検討事項は教員会議や各委員会等で検討できている。また、学校情報ツール（インフォクリッパー）を活用し、適時に学生・保護者への周知はできている。評価が低い細目は、「教員ラダーの活用：1.5」「自己研鑽のシステム：1.8」「運営に必要な人員の配置：1.9」であった。次年度は、教員ラダーを使用し、個人が目標をもって業務に取り組めるよう進めていきたい。また、自己研鑽のシステムを検討し、知識・技術の向上を目指したい。

VII 施設設備：2.7

施設・設備は指定規則に則っており、モデル人形やシミュレーター教材は充実しているが、コロナ禍のため教室環境の見直しをしたことと、3学年ともに120名となり昨年度より学生総数が増加し、ゆとりの空間がさらに減少したため「憩いの場作り：1.9」と低い評価である。限られた空間で、過密にならない工夫が今後も必要である。昨年度、図書に関する項目が低評価であったため、今年度は図書委員会を中心に図書、図書室の充実を目指したところ、「図書及び視聴覚教材は、分野ごと、領域ごとに分類され整理されている：2.5→3.0」「必要な図書増備の予算計画ができている：1.8→2.5」と評価が上昇しており、学生からの評価は「学習するための教材及び図書は十分である：4.4」であった。

VIII 学生受け入れ：2.6

広報を中心に東北6県の高校訪問や進学セミナー参加による学校説明、当校の学校見学やガイダンスを継続している。いままで実施していた高校要請の模擬授業はコロナ禍により一時中断している。コロナ禍のため、密を避けながら少人数にわけてオープンキャンパスを開催し、学校の周知に努めたが、今年度の入学者数94名であり募集人員を下回る結果となった。次年度は、高校訪問、当校の学校見学等を継続すると共に高校要請の模擬授業も可能な限り実施していきたいと考える。

IX 卒業生の状況：3.0

第112回国家試験合格率は現役生で95.5%、4回生のみ97.2%、既卒込みで92.0%であった。希望者には准看護師資格試験も受験させ、今年度卒業の3回生・4回生の国家試験不合格の学生も資格を持って卒業できたが、2回生の1名のみは両方不合格であった。既卒者8名に学習支援を試みたが連絡が取れない状況や学習進捗が見えない状況があり、4名が受験し全員が不合格であった。卒業生による教育評価の「本校で学んだことに満足しているか」の項目は4.7と高評価であった。

X 社会への貢献：1.9

学生自治会がないこと、ボランティアが組織化されていないことから、当校のボランティア件数は少ないが、新カリキュラムでは地域を重視する科目として6回生からボランティア活動が含まれた科目を設定している。対外的な貢献としては、葵会仙台病院へ研修に使用する教材の貸し出しやキャリアデザインの研修講師を派遣しており貢献している。

XI 研究・研修活動：1.8

評価は1.5～2.4と低評価である。外部研修の計画や機会が少なく、全項目中、最も低い評価であり、引き続き今後の課題である。クラス数は各学年3クラスあるため、授業回数が多くなること、領域実習や学校行事、クラス担当、講義など業務が多岐にわたり、特にコロナ禍における対応に多くの時間を費やすなど教務は非常に多忙であった。業務のスリム化、効率化を図りつつ、自己研鑽するための機会を設けられるような環境作りが重要である。

XII 学校評価：2.8

今年度の学校評価は前年度より7細目中、6細目の評価値が上回っている。学校評価をすることで当校の課題が明確となるため、評価結果をもとに改善できるようそれぞれの項目について検討していきたい。

2023年6月27日

学校関係者評価委員

1 学校関係者評価の目的

本校全般の運営について、教職員自らが自己点検・自己評価し、それに対して学校関係者から意見を聴き、これを踏まえて学校運営の組織的、継続的な改善に取り組むことを目的とする。

2 学校関係者評価の内容

- (1) 自己評価項目等の適切性
- (2) 自己評価結果を踏まえた要約と今後の改善方策の適切性
- (3) その他

3 学校関係者からの評価意見

評価者：病院院長

- (1) 自己評価項目等の適切性

評価項目に関しては、大項目ならびに小項目共に過不足なく設定されており、適切であると思われる。

- (2) 自己評価結果を踏まえた要約と今後の改善方策の適切性

上記評価項目毎に各々点数化されており、それに基づいた要約と評価がまとめられている。それぞれほぼ過不足なく解析されており、適切に対応されているものと考えられる。

- (3) その他

特に気付いたものはない。

評価者：病院看護部長

(1) 自己評価項目等の適切性

自己評価は適性にできており、評価指数も妥当だと考えます。

- ① 昨年とほぼ同じような形のレーダーチャートで、「社会への貢献」と「研究・研修活動」が上昇の兆しがないようです。授業と臨地実習指導で、なかなか時間に余裕のない状態が続いているものと思われます。
- ② 卒業生のアンケート結果は、どの項目も評価が高く満足度が高いという結果がでています。これは、学生達に寄り添い、愛情をもって一人ひとりに接している先生方の能力の高さと努力によるものだと考えます。
- ③ 指導者、師長、先生が連携して協力・分担して指導を行うことができ、「実習が楽しい」と学生からの言葉に現れているように、良い実習を行うことで学生の満足度も高くなっています。また、指導者が助言できる体制をきちんと整えていることで、良きロールモデルとなることが出来、指導者の満足度にもつながっていると考えます。

(2) 自己評価結果を踏まえた要約と今後の改善方策の適切性

自己評価の結果を踏まえて、今後の改善方策が適切に考えられています。

今年度の学生数が少なく、募集人数を下回っていることに危機感を感じています。卒業生に協力してもらい、実際に本校で学んでよかったことや看護師になって良かったこと、嬉しかったことなど、高校生にお話する機会を設けてはどうでしょうか。“自分たちに近い存在で自分たちが通るであろう道を経験した人”の話は心に響くものがあります。当院の卒業生が協力します。

(3) その他

当院では実習指導にあたる人材を段階的に成長させ、6年目で実習指導者となれるような教育体制を今年度構築する予定です。それを、学校側と協力してできないだろうかと考えています。

例えば、5年目看護師を実習前の学内実習へ参加させ、看護過程の学びと課題の共有を行い、学生のレディネスを多少なりとも理解することで、指導につなげることができるようになるのではないだろうかと考えています。

来年、1回生が5年目となり、卒業生の継続教育への参加となります。これが、学校側の社会貢献にもつながるのではないかと考えています。

評価者：学校顧問

(1) 自己評価項目等の適切性

教育理念を入学時、学校紹介パンフレットに記述・説明し学生だけではなく保護者にも伝えていることは適切であるが、日ごろ具体的に行動につなげる機会があることが望まれる。教育活動は来年度のカリキュラム改正に伴い教育目標や卒業時到達目標において領域ごとに検討し、各科目の関連性などカリキュラムに関して深めることができた。さらに委員会活動にも反映できたことは、今後の学校運営にも成果が期待できる。教育体制においては単位認定や国試対策、個々の

学生支援は良好で時間割の進度も適切である。教育活動はシラバスの領域ごとに検討し授業計画や改善につなげているが、一部の教員から見るとコロナによる対応から講義の準備が十分でなかったことを、次年度に生かそうと思うことは適切である。学生生活支援では、中途退学者をなくす支援が低い健康管理体制や、教員が学生に関心を持つ事の満足度は適切である。組織管理運営では、教員ラダーの活用や自己研鑽システムの満足度は低かった。学生の受け入れでは、東北6県の高校訪問や進学セミナー参加による学校説明や学校見学ガイダンスと、努力していることは適切である。卒業生の状況では、国試では現役生は全校平均に達していたことは適切であるが、既卒生の効果は伸びなかった。社会への貢献は、ボランティアが組織化されていないこともあってか、十分といえないが葵会仙台病院へ研修に必要なものを貸し出しし、できる努力は行っていることは適切である。研究・研修活動では、外部研修計画や機会が領域実習や講義、クラス担当などにより自己研鑽をする機会がなかったが、工夫して機会をつくることが望まれる。学校評価では、学校評価をすることで本校の課題が明確になって改善できることは適切である。

(2) 自己評価結果を踏まえた要約と今後の改善方策の適切性

教育目標を学生便覧に明示しオリエンテーションで説明しているが、学生・保護者への浸透は十分とは言えない。教員が良く内容を知り、どの教員も学生に対応するときには教員同士のばらつきがないように、事象に対して同一の返答ができることが望ましい。教育課程では、2022年のカリキュラム改正があり2本の過程が行われているため、間違いの予防のため熟知することが望まれる。教育体制では、国試対策が、他校と比べると学生の人数が多いため教員の対応も大変であるが、個別に対応できていることは良好であり、今後の継続が望まれる。教育活動ではシラバスの見直しや今後においては授業評価の検討もされることが望まれる。学生生活支援では中途退学者の状況を分析し、入学時から注意を払うなどの対応も必要である。学校職員は学生から近づきやすい存在であることは良好である。組織・管理運営では、教員ラダーの活用は必須であり教員の客観的に自己分析にも活用できる。施設・設備では、学生数が増えたため憩いの場が減少しているため、利用に工夫が望まれる。

学生の受け入れでは、18歳人口の減少とコロナの影響もあり看護学志望者が激減している。その中で定員をどのように確保するかは今後も課題になるが、できることを試みる必要がある。卒業生の状況では、国試は現役生の合格は平均値であるが、毎年、既卒生を合格に導くのが困難であるが、早くから対策をするように働きかけることと、仕事の休みには学校での学習を提案することが良いと思われる。社会への取組では、ボランティアは、学校の出なければならぬ教科に位置付けるなど、何か工夫する必要がある。研究活動では、各領域一つまとめることから取り組むとよいと思われる。

学校評価では、評価を行ったことで良いことや課題が表面化してきているので、取り組めるところから取り組むことが重要である。

(3) その他

今年度も新型コロナウイルス感染症の継続の中で、学生も教育形成が困難であり実習が十分できないことは、いかに学問と臨床及び実技をつなげ深めるかが課題である。コロナ3年目となり学習の工夫や教員にも慣れが出てきたため昨年よりは危機感が少ないと思うが、対象となる学生は毎年違う人たちなので、気は許せない状況である。社会貢献が伸びないのはコロナ対策もあり、時期的に取り組みにくかったと言える。2023年度はボランティアを利用し地域に出ることで、学

校の知名度も上がるため学生募集がしやすいのではないかとと思われる。国試対策は、今までの経験の積み重ねもあり、できるだけ初期より取り組み、昨年度より効果的な方法で実施できることが望まれる。

入学時良い学生を獲得するにはどうしたら良いか、本校だけではなく他校も工夫を重ねている。他の学校を知っていく事も大事である。

【総評】

昨年度同様コロナ禍により学校関係者評価会議は、委員が一堂に会することがかなわず、各委員の書面により集約するこことした。学校自己点検・自己評価も4回目となり、卒業生評価も実施された。卒業生評価では全項目4（そう思う）以上の高評価であった。卒業時到達度では8項目平均が昨年度の4.74から4.78に、卒業生満足度も18項目平均が昨年度の4.58から4.66へと共に上昇した。今結果から学生の学習面・生活面の充実がうかがえた。

今後とも、看護教育をめぐる諸情勢・諸動向を注視しながら、今回の点検で明確化した諸課題を一つずつクリアーしていき、ますます地域社会に貢献できる学校であり続けることを願う。